

大井第一小学校

同窓会会報4号



大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2002年3月



【校歌五番】

作詞 北條 誠
作曲 服部 正

誇らかに
誇らかに
語りつごうよ
この歴史
七十五年
歳ごとに
人は変われど
変わらぬ光
ああたたえよ大井第一
(以降歳毎に数字を増すか若しくは
七十余年・八十余年というふうにする)

「より良い環境を求めて」

同窓会会長 昭和14年卒 津田 照通

私は浅野前会長の後任として同窓会会長をお引受けしました昭和14年卒業の津田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私が入学した昭和八年は「サイタ サイト サクラ ガ サイト」で始まる色刷りの国語教科書が初めて採用された年です。(この年、昭和生まれの小学生が誕生しました)

昭和十一年、皇太子(現天皇陛下)誕生記念プールの完成で、私は水に浮くことを覚えました。そして昭和十四年「六年間精勤」の賞状を頂き卒業しました。その頃「幼児・児童の虐待」「いじめ」「不登校」「学級崩壊」等の言葉は全くありませんでした。池田小学校のあの残忍な事件には愕然としました。この様な社会情勢の中で私共に何が出来るでしょうか。学校・PTA・同窓会の三者が、お互いの領域を尊重し乍ら連携プレーをする中で、懇親を深め、児童を取り巻く環境の向上を模索し、心の豊かさ、心の優しさ、心の強さを育てる様な情操教育のお手伝い等が出来れば幸いです。

「新たな出発の年に」

第25代現校長 櫻橋 賢次

昨年四月に本校に赴任しまして早一年が過ぎようとしております。この間、同窓会の皆様方から多大なご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、二十一世紀最初の年でしたが、大阪の池田小学校の校内児童殺傷事件、米国における同時多発テロ事件と国内外に大きな事件が相次ぎ、不安な幕開けとなつてしまった年でした。今年こそは、良い年でありますようにと願わずにはおられません。

さて、先日、事務局の森さんから昭和四十年の新聞のコピーをいただきました。「城南、学校物語」と題して本校の歴史が書かれたものでした。見出しには、「高等科しのぐ学力、スパルタ式できたえる」とあり、明治時代中頃、本校の出身者は皆成績がよく、進んだ学校との評判がたち、遠くから入学する人も出てきた、と書かれてありました。改めて、本校の長い歴史と伝統を感じた事でした。
教育改革が進む中、本年四月から完全学校週五日制のもとで新しい学習指導要領が全面实施されます。ゆ

とりの中で、特色ある教育を展開し、子ども達に豊かな人間性と自ら学び自ら考え行動する「生きる力」を育成することを大きな目標としています。しかし、教育内容や授業時間の削減の中で学力低下につながらないか、などマスコミで不安の声があがっています。本校としましては、これまで皆様方が築き上げてこられた輝かしい伝統に学び、学校は未来を創る子ども達のためにあるということに再認識し、家庭や地域と力を合わせ、豊かな心を育むとともに、基礎学力がしっかり身に付くよう教育内容、方法の改善充実に全力を尽くしてまいります。

同窓会の益々のご発展を祈念いたしますとともに、母校に対しまして変わらぬご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

「校歌(昭和25年制定)の

5番について

第24代校長 兒玉 潔夫

事の起こりは、同窓会の会合からでした。

それ以前からも校歌の5番については、「はじめからあった」説と「後の創作だ」との両説がありました。この時も色々な考えが出されま

したが結論がでず、その結果、調べてみることになりました。

ちょうどその頃、旧職員森下先生の情報として、「文書が残っているはずですよ。」があり、早速森下先生に連絡を取ったところ、わざわざ先生は学校まで探しに来て下さいました。音楽室中心に探しましたが、残念ながらこの時は見つかりませんでした。

その後、125周年(2000年)を迎える準備で、校内を整理しましたが、「北條誠先生がはじめから創っておいて下さった。」との前提でその証拠文書も探しました。

すると、郷土資料室の古い文書の中に、5番の歌詞がはじめから存在していた証拠の文書が紛れていたのが発見されたのです。

その文書には、北條先生の直筆で、今の5番の歌詞が4番として記されており、「以後毎年数字を増す」と指示がされていました。

いつから4番と5番が入れ替わったかは不明ですが、この文書のおかげではじめから校歌が5番までであったことがはっきりし、永年の疑問が解消しました。この文書は、現在大切に保管されています。

さて、学校では、周年行事や創立記念日の集会にだけ5番を歌うよう

にしています。

なお、校歌の2番は男児が、3番は女児が歌うようになっていますが、これは、男声と女声の美しさをねらったものです。

この制定当時から伝統は、今でも引き継がれています。

それにしても、本校のように歴史と伝統のある学校の校歌がやっと昭和25年に制定されたというのも、不思議な気がします。

2001年12月記

「武井先生を悼む」

昭和26年卒 平出 武

同窓会会報第三号で武井春夫先生の訃報を知り、哀惜の想い抑えがたく、拙文を投稿させて頂きました。

私は昭和23年、当時の滝王子町(現在の大井五丁目)に転居してきました。その年の初め、大井第一小学校に転入学しましたが、今で言ういじめに会い、悲しい想いをしていたところ、その年の四月から四年生になって、武井先生が担任になったのです。

先生は転校生の私を差別するどころか、むしろ、私に目を掛けて下さいました。

私はいじめられることもなくなり

生き生きとした小学校生活を送ることができるようになりました。

そのころ、大井第一小学校はまだ震災のため校舎がなく、浜川小学校に間借りをしていました。昭和24年の夏だったと思いますが、新しく木造の校舎が出来て、私たちは一人一脚ずつ椅子を持って引越をしました。その、先頭に立って指図していらっしやっただのが武井先生でした。

先生には六年生まで担任をして頂きましたが、日曜日などにはよく先生のお宅(学校の敷地内に建っていた)に呼ばれ、出席簿の整理などを手伝わせて頂いたものです。

友だちが給食のミルクを床にこぼしてしまった時、先生は怒らずに、「いいよ、たまには床もミルクを飲ませて上げなさい。」とおっしゃいました。

私は、そんな武井先生が大好きで、この先生のためだったら何でもしようと思っていました。

先生に対する敬愛の念と憧れの気持ちですが、いつしか、私を教職に就かせたのかもしれない。

あれから約50年、いろいろな事があって、平成10年3月12日、品川区の退職校長と現役校長の会で図らずも先生にお会いしたのです。

その時は足の具合が少し良くないとおっしゃっていらっしやいました。が、ずいぶんとお元気でした。

それが、50年ぶりの、しかも最後の先生との対面だったのです。

今考えてみますと、あの出会いは神様のお取り計らいだったのではないかと考えてみたりしております。

武井春夫先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「わが友よ」

旧職員 徳永 昭典

私にとって盟友とも言うべき神崎三郎先生は私と同じ頃大井第一小学校に着任され、約十年間教職を共にした。年齢も趣味も大体似ていたせいかよくウマが合い各地へ出かけた。なかでも上野の国立博物館へは折りある毎に足を運び陳列してある美術品に見取れたり、講座に出席したりして日本の古美術のよさに魅了させられた。また、青丹会という会を作って博物館の技官と共に奈良・京都等の古寺を訪ね、美しい仏像の微笑や迫力ある四天王像の魅力に心を奪われたこともあった。

或時、私達が休暇を取って奈良に行こうとして時、葛生校長が「君達、そろそろ生きた美術を見た方がいい

よ。」とおっしゃった。彼はその言葉の意味を実現することなく、はや鬼籍に入り、今では極楽浄土の美しい仏像に囲まれながら、管弦の音を楽しんでいることだと思ふ。ご冥福を祈りたい。

合掌

「先生のやさしさと」

豊かな自然

昭和27年卒 横川 路子

神崎先生の計報の電話を山本さんからいただいたき、お亡りになった最後の場所をお聞きしましたところ、なんと私達家族が半年後に引越す予定の地、みはる野“からすぐ近くの地ではありませんか!! あまりの偶然に驚いてしまいました。そして一周忌にあたる今年の5月、徳永先生や何人かの友や、後輩の皆様と共にお墓参りができました。

穏やかで静かで、野の花が咲き乱れる上荻野の小高い丘の上に、先生のお墓がありました。在りし日のあの笑顔で「よく来てくれたね。」と迎えて下さったように思います。お参りの後でお顔のよく似たお姉様方も2人に、先生のご実家で、大変なおもてなしを頂き、思い出話をいたしました。また、主を失った素敵な離れが寂しそうでした。

思い出話の中で皆の口から共通に出てきたことは「やさしかった先生。」のお姿でした。

甘えん坊だった小さい頃、友達と争いをして泣いていた私を膝に抱いて、涙を拭いて下さった先生の印象が強く残っています。

私は今、この地に住んでみて上荻野の穏やかな自然と気風が、先生のやさしさを育てたのではないかと感じています。

先生、また逢いにいきますね。やすらかに眠りください。

「神崎先生のこと」

昭和29年卒 平岡 忠之

平成13年4月の或る日曜日、神崎先生のお墓まいりに昭和29年卒業の6梅の友人6名と、徳永先生、そして2年先輩の人達と共にお姉様のご案内で行くことができました。

そこは丹沢前衛の山ふところに抱かれ、まわりは満開の桜にかこまれた実に美しい墓地であった。花を供え、墓石に水をかけて心から先生のご冥福を祈った。

私は神崎先生には5年生の時、担任していただいた。今でもよく覚えているのは、ボール紙を彫刻刀でカットして大島の模型地図を作った

ことである。後年、私が登山を趣味とし地図を読むのが好きになったのは、このことがもとになっている。又、楠正成の千早城赤坂城の攻防戦の話聞いて歴史に興味を持ったのも、先生の影響である。

卒業後は私の家から大井町駅へ行く途中、大井第一の前を毎日、見ながら通っていた。夏休みになると先生が白いフンドシ姿で水泳指導をされ、あの特有のダミ声プールいっぱい響き渡っている様子を、のぞき見たこともあった。また或る時は宿直室で、囲碁を教えてもらったことも、なつかしい思い出である。

先生のご出身が厚木の上荻野であると聞いた時、母の実家が、この荻野川下流の林という所なので意外と近いことを知り、感慨を覚えた。

「悪夢?それは」

現実だった。」

旧職員 昭和13年卒 松崎 澤子

私にとって戦争末期の記憶の中で、ひととき深く印象に残っていること。それは昭和20年5月24日の空襲で大井第一小学校が全焼したことである。

幸い私の家は焼失をまぬがれたので、夜があけてからひとりて学校をめぐり急いだ。坂の下の学校園の入り口から入り、ヒマラヤ杉の下に立って前方を眺めると、何と校舎は何もないのだ。ただ防火壁だけが二面向き合って、そそり立ち、防火壁の間の教室は全部焼け落ちていた。

そしてヒマラヤ杉と共に、第一小のシンボリック的存在だった桐の木の下に掘ってあった防空壕が焼夷弾の直撃にあい、次の日に疎開される予定だった保健の石塚先生が、たまたま学校に宿泊され空襲警報によってこの壕に避難なさってお亡りになったことを、警防団の人達の話から知ることができた。

私がぼうぜんとヒマラヤ杉の下で校舎の焼跡を見、ふと桐の木に注目した時、警防団の人や当時の小使さん（用務員さん）達、5・6人のご遺体を掘り出し、先生の胴体にロープを巻きつけて皆で引き上げようとしていた所であった。着ていらっしやったモンペの上下は焼けていないようだったが、ご遺体の首から上、頭、顔がないのだ。（人形の首をいたずらっ子がぬきとってしまった状態。）ハッとそれを見た時のおどろき、ショック。ふた目とは見られ

なかった。

私は焼け落ちた校舎にも、石塚先生のご遺体にも、唯ひたすら合掌してそのまま引き返したのであった。後で聞くと学校周辺の住人の中で焼夷弾や爆弾で亡った人の遺体を火葬場まで持って行けずに、校庭の真中で荼毘に付した人もいたとか。半世紀以上たっても忘れられない光景である。

「校庭の木」

昭和25年卒 豊間根 繁子

戦争も終わり病氣回復後、歩く事が出来るようになった私が通った校舎は、浜川小に設置された仮校舎でした。晴れた日は第一小の校庭にあるヒマラヤ杉の周囲に石の椅子を並べての授業などを経て、木造一棟の校舎から少しずつ新しい校舎が増築されて行きました。

しかし運動場にあたる地面は焼けただれて赤茶色になった土に瓦礫の混じったもので、緑といえればヒマラヤ杉と桐の木だけでした。

当時、我が家の庭には祖父と父が趣味で集めた庭木が手入れも出来ぬままに生い茂っておりまして。父は八ツ手、楓など移植できる木を学校に植えました。（リヤカーで何度も

取りに来られたのは用務員さんだったでしょうか。）また父が大切にしていた五葉の松の盆栽は、校長室に置かれて、各種の式典の時には演壇に飾られました。

同じ様に何軒ものお宅からも木が運ばれて植えられ、青いブリキの板に木の名前と〇〇氏寄贈と白いペンキで書かれた札が掛けられました。中でも校門の右手にあった楓の木は在校時代のさまざまに思い出があり、卒業後も学校を訪れる機会があると所在を確認していましたが、前庭の改修の時から遂にその所在がわからなくなりました。

あれから五十年余りもたった今、楓の木はどこでどんな大木になっているでしょうか。

沢山の木々や花に囲まれた現在の校舎を見るたびに、一本一本移植された当時のPTAの方々の学校復興に寄せられた気持ちに想いをさせています。

「大井第一の名木達」

第22代校長 大野 福三郎

私が大井第一小学校に在職したのは昭和53年から5年間と再び昭和61年からの4年間、合計9年間、教職生活のおよそ1/4にあたります。そ

れだけに大井第一は、私の人生で切り離して考えることはできません。

桜の咲きほこる春、緑に囲まれる夏、紅葉に色どられ、銀杏の実の落ちる秋。寒さに耐え、蕾を固く結んで春を待つ樹々。四季それぞれの変化を子ども達に訴える樹々を何回も見て来ました。大井第一は区内でも緑の大きい樹々に囲まれた学校として五本の指に入るといわれています。池上通り側の見事な公孫樹。南側のかやの大木。東側の杉の大木は、学校見学の来校者や卒業生の思い出に残る名木でした。また校庭の北校舎寄りに桐の大木が頑張っていたのも忘れられません。夏には紫の大きな花を咲かせ、それはそれは見事でした。確か昭和56年の夏、校庭の簡易舗装が始まり夏休みに入ってからブルドーザーでアスファルトをはがし始めた矢先、台風が東京を直撃しました。「桐の木が倒れました。」との警備員の連絡で、翌朝、黒田校長、当時の同窓会長 岡田一郎氏と共に駆けつけ桐の大木に清酒を注ぎ苦勞をねぎらいました。長い間、児童に親しまれ、大いの一のシンボルとして君臨した大木でもありません。幹の下部から根にかけて大きな空洞があり、よくもあれだけの体を支えていたものだと、深い感慨を覚

え、涙したひとときでした。

東側に聳えていた数本のヒマラヤ杉はプール改修時に一本を残して姿を消してしまったのも惜しまれます。北校舎寄りのなつめの銘木があったのをご存知でしょうか？ 今どうなっているか、今度伺ったら探してみようと思っております。大井第一の歴史を語る学校の名木達は、今、何を思い何を訴えているでしょうか。これからも大井第一の教育活動の一翼を担っていくことを確信して筆を置きます。



(倒れた桐の木)

「半世紀」

昭和25年卒 中村靖夫

昭和23年8月縁故疎開先から大井

第一小学校に編入したのは4年生の時でした。まだ学校は空襲で焼け落ちたまま敷地は瓦礫の山でした。その焼け跡を横目で眺めながら間借り先の浜川小学校まで通っていました。

学校の玄関には大きな太鼓が置いてあり、それをチャイムがわりに使っていました。わんぱく坊主としては格好の悪戯道具で、よくそれを叩いては用務員さんに叱られたものでした。当時の担任の田中歳一先生が「この学校は借り物なのだから悪戯するなら自分達の学校が出来てからにしないさい。」と諭された記憶があります。先生方も気を遣っておられたのですね。

5年生の時にバラックの様な校舎が再建されました。子供心に本当に嬉しかった記憶があります。それでも教室数がたりず一部授業が行われ、1日おきに校庭のヒマラヤ杉の下で、外での授業が行われていました。今、考えると「雨の日はどうしていたのだろうか。」と思います。

その後、昭和49年に長女が入学しました。その頃、私は学校歯科医として嘱託職員の立場で学校に行く機会があり、自分の在校当時とは施設、環境等比較にならない程、充実してきたことを目前にして感慨無量

でした。

歯科検診の後で学校給食をご馳走になった時、私の子供の頃の給食と比べて内容の違いに驚きました。勿論、時代も変わり給食の食材も予算の面も関係してはいますが、私の在校中から児童のために頑張って下さった給食主事の増田先生の努力にあつたと、後でお聞きしました。私の年代以降の同窓生には懐かしいお名前だと思えます。

末っ子が入学してからはPTA会長として学校に出入りする機会も増し、PTA活動ではいろいろな事をやらせていただきました。その中で最も思い出に残ったものは神崎先生のご努力で学校にミニバスを借りられる事になり「今回のPTA主催のイベントはこれにしよう。」と言うことになりました。当日は快晴。校庭いっぱいにはレールを敷き、機関車に給水、燃料の補給も本物と同じでやがて規定の蒸気圧に上って先ずは試運転。会長権限で一番に私が客車に跨って乗り校庭を一周した時、まさに試乗を待ちかまえていた児童達の好奇の目。笑顔で見守って下さったPTA役員の方々。乗りながらイベントの成功を確信しました。これも母校との係りの中での大きな思い出です。

「会員からの投稿とお便り」の一部をご紹介します。

メルヘン(懐かしい先生の思い出)

昭和18年月組卒 和泉 正哲

私は日中戦争の始まった年に入学し、教育勅語と軍人勅諭に育成され、第二次世界大戦の真只中に卒業した戦中・後期派である。勅諭に「上官の命令は朕の命令と心得よ」とあるのを拡大解釈され先生の命令は天皇陛下の命令とばかり生徒に体罰をビシビシ加える先生方の横行された時代に、音楽学校出たての美しい先生が赴任された。多くの生徒が姉と慕った中に、美しいものを虐めて喜ぶ悪童は何時も存在するもので、先生をとうとう泣かせてしまった。その時先生は職員室から背が高くハンサムな先生を連れて来られ悪童を退治して貰った。この行為に対し職員室がどう反応したかは残念ながら知らないが、我々生徒は、お姫様と白馬の騎士のメルヘンを眼前にして、殺伐たる戦時の小学校生活の中に一陣の清風を感じた。卒業後軍事道路作成のため我が家は取り壊され東京の外れへと移り、私はつい最近まで名簿上の行方不明者となっていた。

昨年晩秋の古稀を祝う同窓会に出席し、多くの学友と57年振りに再会したのである。

PS 先生方の御名前はわざと伏せた。御参考迄に女の先生は昼間先生、男の先生は半田先生で、お二人は後日御結婚されたと風の便りで知った。

同窓会会報3号
ありがとうございます

(卒業生) 望木

今日、実家に届いていた会報をもらい拝見しました。

私は父↓娘2人と2代にわたって同校にお世話になり、小学校には感慨深いものがあります。ましてや私などは一時は大井町を離れたものややはり忘れられずに主人を連れて実家のそばに戻ってきてしまったという不届き(?)ものです。突然ですが、なぜメールをしたかというところ、「物故者」のなかに懐かしい方の名があり、驚き・悲しみと共に思い出などが浮かんで来たからです。武井春夫先生はもしかしたら大井4丁目にお住まいだった校長先生では？先生の思い出は「全校朝礼」の挨拶です。毎週月曜日の「全校朝礼」で6年生が生徒を代表して「おはようございます！」と号令をかけ、その後、

全校生が「おはようございます!!」と唱えた後、校長先生は決まって「おはよう」と、やや低めの洪い声で返して下さったのを覚えてます。

卒業をしてからもお住まいが近かったのでよくお顔を拝見してうれしかったです。あと、神崎三郎先生！この先生は父も私も妹も教わり、愉快な思い出ばかりです。あまり会話のない思春期の「父と娘の会話」の時でもこの先生ばかりは話は別!!先生の昔の面白いエピソードを聞いては、それを翌日友人に話して笑ってました。ピーカーでお湯をわかしてラーメンを食べているとか、学校に泊まっているとか...どれも真実はわかりませんが、不思議なムードをもった先生だったので「本当かもしれない...。」と幼心にカルチャーショックを受けたものでした。なにしろ私が教わった授業の時には、騒がしい男子生徒をパンツ1枚で正座させたりもしましたし...。他にも、思い出のある先生の名前があり、思い出が走馬燈のように回っています。ところで、100周年の記念の歌はホームページにないのですか？私はまだ歌えますよ。「もう100年か」と、思ってみると、心にずっしり大きな柱 僕達の私達の心に強くこの伝統、与えてくれる ああ大井

第一小学校」ぜひ、これも流してください!! 100周年記念誌は、まだありますか？

100周年記念誌は、まだありますか？

昭和51年卒、四宮 智子

実は、100周年の記念誌が、もしまだありましたら、1冊購入したいと思いをご連絡しました。(表紙の版画は、当時6年生だった、私のものが採用されています。ずっととっておいたのですが、今回の引っ越しで紛失してしまいました。最近マスコミに御校が登場するのを拝見して、ふと思い出し、可能なら1冊欲しいと思っております。)どうぞ、よろしくお願ひします。また、当時つくったタイムカプセルの開封予定も教えていただきたくお願ひします。

・回答

記念誌の残部はありますが、表紙のコピーを送りました。カプセルは資料室に保管されています。「150周年に開封する」と記念誌に書いてあります。

お元気ですか？

昭和35年卒 大河内(仁科)百合子
大井第一の同窓会の会報ありがと

うございます。岩楯さんの写真を見、懐かしく思いました。主人の転勤が2回もあつたりして、なかなか皆様とお目にかかれなないのは、残念です。先日佐藤夏子さんに電話しました。

ホームページ校歌音声の件

昭和14年竹組卒 大谷 和夫

ホームページ開設は兒玉校長先生の力作だそうで感心しました。ただ折角の校歌の音がでませんので使用ソフトを教えてください。

・回答 調査中です。

偶然です

昭和45年卒 安藤 隆弘

昭和45年万国博の開催の年に卒業したものです。どなたか大阪、あるいは関西在住の卒業生ごぞんじありませんでしょうか？出張でたまに帰りますが皆どうしているのか知りたいです。よろしければご連絡お待ちしております。

同窓会について

昭和37年卒 園 文博

卒業以来、同窓会やクラス会に出席したことが無く、今思えば淋しい限りです。

『振込用紙の通信欄より』

- ・開校時の記録保存して下さい。
- ・会費(何口) 出しにくい、(何円) としては?

(S 6卒 横山 瞳)

- ・回答 記録は本校資料室にあります。皆様のご意見お聞かせ下さい。

(編集委員より)

- ・昭和11年当時、林部先生に画いていただいた私の肖像画を大切に保存しています。

(S 11卒 松組 岩手 信雄)

- ・座談会“大井小の変遷“大変楽しく拝見しました。また機会をみて、このような企画を続けて下さい。ありがとうございます。

(S 13卒 竹組 荒木田清瀬)

- ・運動場は、大・小と、校庭の奥に学校菜園があり、そこで運動会をした記憶がある。

(S 21卒 江口 稔)

- ・卒業写真で当時を懐しんでおります。今後共、よろしくお願い致します。

(S 28卒 松組 帆足 長次)

- ・78歳になってあきれいています。行きたいのはやまやまですが……

(S 11卒 松組 河野 通)

- ・校歌の5番をお教え下さい。

(S 28卒 松組 山上 耕治)

- ・回答 4号一ページ、兒玉前校長先生の文でわかります。

(編集委員より)

- ・校歌は昭和8年の卒業生一同が、校旗と共に贈呈したものです。

(S 8卒 竹組 吉岡 健)

- ・親の看護で体をあけるのが難しくご無沙汰致しております。(担任だった武井先生が昨年12月に亡られたとのこと。もう一度、お逢いしたかったのに誠に残念です。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(S 26卒 松組 下川 純弘)

- ・父、石野廣光(S 10卒 竹組)は、今年、平成13年1月18日永眠いたしました。折にふれ小学校の頃の話をしてくれました。人の一生の間で又、父の世代の人にとって一番、平和な時期だったのではないかと思います。皆様のご活躍を祈っております。

(遺族、佐々木和美)

第三回 同窓会総会記録

平成13年4月14日(土)

PM 2:00 ~ 3:00

於/大井第一小学校 視聴覚室
出席者総数/約30名

- 1、会長挨拶 浅野 眞
- 2、来賓挨拶 大木教頭先生
- 3、議事

- ①事業報告
- ②会計報告及び監査報告
- ③事業計画
- ④収支予算案

平成12年度 収支決算報告 (H12年4月1日~H13年3月31日)

収 入		支 出	
11年度より繰越	1,435,172	会費振込手数料	81,470
会費入金	2,445,254	会報関係	1,050,325
預金利息	426	(印刷費)	(622,655)
12年度卒業生入会金	30,000	(発送費)	(427,670)
		集会費	40,614
		通信費	32,420
		その他経費	40,615
		次期へ繰越	2,665,408
計	3,910,852	計	3,910,852

平成13年度 収支中間報告 (H13年4月1日~H14年1月31日)

収 入		支 出	
12年度より繰越	2,665,408	会費振込手数料	16,640
会費入金	544,000	会報関係	()
寄付金	5,000	(印刷費)	()
預金利息		(発送費)	()
13年度卒業生入会金		集会費	1,770
		通信費	2,000
		その他経費	26,401
		次期へ繰越	3,167,597
計	3,214,408	計	3,214,408

- ⑤役員改選
 - ⑥その他
- 以上の議事について承認決定されました。

新役員

役 職	氏 名	卒 年
会 長	津田 照通	(昭和14年卒)
副会長	森 秀雄	(昭和34年卒)
財 務	松本徳太郎	(昭和35年卒)
監 事	杉内 先子	(昭和41年卒)
	宮内 利雄	(昭和16年卒)
	小林 昌雄	(昭和46年卒)
理 事	飯田 るみ	(昭和46年卒)
	13名	

投稿のお願い

大井第一小は、長い歴史に支えられていきます。良き伝統が脈々として流れ、後輩達に受け継がれています。しかし、時代背景や世相の違いにより、思い出も異なるものをお持ちでしょう。「文字」にして残しておきたい思い出等がありましたら、投稿をお待ちしています。

10月30日までに、FAX・Eメールで、森か松本宛にお送り下さい。

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に関わる慶弔費等の諸費用がかかります。平成13年の会費納入者は七五〇名で約七〇〇〇名に第三号会報を送ることができました。これからも安定した同窓会活動を続けるために、会費納入に皆様のご理解とご賛同を心よりお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円

同封の振込用紙をご利用頂き、五月末までにお振り込み下さい。

名簿の資料提供に ご協力を!!

同窓会事業の一環として、会員名簿や会報の発行があります。

より正確で完璧に近い名簿づくりを努めています。会報第3号の宛先不明による返却状況を見る限り、思うようにいっていないのが実状です。つきましては、各卒業年度の同期会やクラス会の幹事の皆様、新しい名簿を作成されましたら、是非とも下記の編集委員、又は学校に封書、葉書で提出をお願いいたします。又、会員個人の住所変更、情報等もお知らせ下さい。更に、各卒業生担任の先生方のお手元に資料がございましたら、ご提出くださいますよう、お願い申し上げます。

物故者

平成一三年二月

塩谷 泰賢先生

(昭和26年〜36年)

平成一三年一月

池上 敏子先生

(昭和11年〜13年)

謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願いいたします。

森 秀雄

(昭和34年卒 副会長)

TEL 〇三―三三七七―〇五〇六

FAX 〇三―三三七七―〇五〇七

松本 徳太郎

(昭和35年卒 副会長)

TEL 〇三―三三七七―〇二八六

FAX 〇三―三三七七―一九六七九

E-mail: mats745@cts.ne.jp

〒一四〇―〇〇一四

東京都品川区大井六―一―三二二

品川区立大井第一小学校

同窓会事務局

TEL 〇三―三三七七―一五二四〇

FAX 〇三―三三七七―一五三四八

<http://www1.cts.ne.jp/~oichi/>

前号記事の訂正

第3号 4頁 下段

「校歌S26年にできました」は、S25年の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

編集委員より

故、神崎先生のお姉さまより、先生の遺された大井第一小関連の資料を送っていただきました。写真、文集、記念誌が主ですが、その中に：

「研究」大井町のうつりかわり

昭和35年度

大井第一小学校 郷土クラブ

研究部員 伝川幹、長谷川孝、村

岡善徳、高瀬和子、森井千津子以上

5名で作成された50ページに及ぶ調

査報告文がありました。

森までご連絡頂ければコピーをいたします。

編集後記

寄稿して下さいました皆様ありがとうございました。ご意見を感想等もお寄せ下さい。

第四号では会費振込用の通信欄に書かれた皆様からのお便りもご紹介しました。これからも会員各位のご協力ご理解で会報の充実を図ってまいります。

ご意見・ご感想等もお寄せ下さい。

編集委員

昭和13年卒 松崎 澤子

昭和34年卒 森 秀雄

昭和35年卒 東山 周子(兼村)

昭和35年卒 上野 良子

昭和35年卒 松本徳太郎

昭和42年卒 井上 幸子(山崎)

昭和49年卒 三戸 美子(山口)